



すべてのプログラムを終えて、参加した親子は大満足の表情で集合。森の大切さを学び、普段はできない貴重な体験をした一日でした。

森のフィールドツアー 2015

9月5日(土)、三井物産(株)が保有する勇払郡の似湾山林で「森のフィールドツアー」が開催されました。ツアーには、道内の小学4~6年生の子どもたちと保護者19組38名が、AIR-Gアナウンサー・千葉ひろみさんと共に参加。普段は足を踏み入れることのない森の中で、子どもたちは何を発見し、どんな体験をしたのでしょうか?

環境保全に配慮した林業を行っている山林 三井物産の森「似湾山林」

全国74か所にある「三井物産の森」の中でも、最も活発に林業が行われている山林。厚真町とむかわ町にまたがり、総面積約4,700ヘクタールのほぼ全山を国が「水源かん養保安林」に指定。約160ヘクタールが「水源地かん養保安林」に指定され、貴重な水環境が保護されています。針葉樹の人工林のほか、天然林も半分近くを占め、動植物も多数生息。林業と環境保全の高立を表現している森です。



生きてる森を知る 冒険の旅が始まる!

全国74か所に約4万4000ヘクタールの社有林を保有し、林業の推進、豊かな森づくりに取り組む三井物産。今回のツアーは、同社が所有する似湾山林が対象です。バスの中では、AIR-Gアナウンサー・千葉ひろみさんが進行役となり、「NPO法人おすの宮本英樹さん」と三井物産のスタッフが、日本の森林事情や森の役割についてお話されました。「日本の国土は約7割が森林。世界でも3番目に高い森林率です。森林の木々は、CO2を吸収して温暖化を防ぎます。また、バイオマス燃料を生み出し、動植物を育み、建物や家具が生活のさまざまな場面に用いられています。木を切るの悪いことではなく、健康な森を育てる

手ノコに苦戦しながら力を合わせて冒険!

現地では4チームに分かれて、三井物産フォレスト(株)のスタッフと共に森の中へ。木々を観察しながら移動する途中で昆虫を見つけたり、拾った枝をつないで長さを競うゲームや袋の中の植物を触って当てるゲームなどで、子どもも大人も盛り上がりです。「見て、聞いて、匂いを嗅いで、触ってみる。大切な感覚を研ぎ澄まして、五感を使って森を感じてください」と宮本さん一同は楽しみなが、生きてる森に親しんでいきました。昼食の後は、間伐作業にチャレンジ。スタッフが「木が密生する森では、日光がささげられて成長できない木が生え、動植物も育ちません。健康な木を育て、森の環境を保全するために、間伐作業は不可欠です。適切に木を切り、健全な森を育てることの大切さを教えてくださいました。子どもたちは慣れない手ノコに苦戦しながら、交代で間伐作



コースターづくり

間伐材を輪切りにしてコースターづくり。間伐作業の後は、手ノコの使い方も慣れてきた様子。オリジナルの力作ぞろいです。



高性能林業機械ハーベスタの見学

伐倒から枝払い、玉切りまでの作業を一貫して行う林業機械ハーベスタ。そのスピードと迫力に、驚きの声が上がりました。



未来の森を夢見て みんなで苗を植樹!

プログラムの最後は植樹体験。地面に穴を掘り、トドツツの苗木を1本ずつ植えていきます。この日、みんなが間伐した木の年輪は約50年。子どもたちがおじいちゃんやおばあちゃんになるころ、植えた木は見上げるほどに成長し、豊かな森を形成します。間伐と植樹のサイクルの中で森が育まれ、その森が私たちの暮らしや地球環境を支えていることを学んだフィールドツアー。森の中で生きてる自然を体感し、「木づかい」の大切さに気が付いた子どもたちの心は、木々のように伸び伸び成長することでしょう。

木や植物観察

カツラの木の甘い匂い、水からあふれる松ヤニ、酸っぱい山ぶどう、めったに見られないワタモシを食べる様子など、生きてる森をじっくりと体感しました。

間伐体験

慣れない手ノコの作業に苦戦しながら、力を合わせてエゾマツを伐採。木がゆっくりと倒れたとき、子どもたちから歓声が上がりました。



宮本 英樹さん (LEAF) 北海道林業振興局 似湾フォレスト NPO法人 おすの 理事長

身近な山に入り、森の豊かさを実感してほしい。参加した親子の意識は、以前は「植樹したい」が大半でしたが、今回は「切ってみよう、森を学びたい」など、多様になっているように感じます。森は、さまざまなモノの材料を生み出し、地球環境を養い、癒やしの効果もある。私たちは、その恩恵を受けて生きています。ときに身近な山に入り、「人は木に生かされている」ことを森の中で実感してほしいですね。



千葉 ひろみさん (AIR-G アナウンサー) AIR-Gアナウンサー 札幌放送局 9月27日(土) 15時30分~16時30分 札幌放送局 1階1000号室

力を合わせて行動した、森の中の子どもたち。今回のツアーは、子どもたちが積極的だったのが印象的でした。年上の子は年下の子を思いやりながら、森を歩いたり、作業をしたり。女の子でも、昆虫やトカゲを楽しそうに観察していたり、子どもたちがそれぞれの立場で力を合わせて行動する様子を見て、自然の中でこのような体験ができることの素晴らしさを感じていました。日本は国土の7割が森の国。森の中を歩くことは、日常生活では絶対にできない貴重な体験です。歴者の皆さんも、森に入って木々の大切さを感じていただければと思います。

参加者の感想

子どもと一緒に森の中を歩いてみようと思った。手ノコで木を切る感覚を知ったり、植樹をしたり、普段はできない貴重な体験ができました。

今年3回目の応募で、初めて参加することができました。お弁当のとき川に草花を採って遊んだのが印象的。気持ちよかったです!

楽しかったのは木の間伐。親しかたけど、何とか切ることができました。サクサクの木を切ったので、コースターを4個つくりました!

手ノコで木を切ったり、植樹をしたり、森の中の作業は初めての体験ばかり。間伐のとき、スタッフの方の指導が素晴らしいと感じました!

みんなで力を合わせた間伐作業が楽しかった。シカの足跡も見つけた。3種類の木がらつったコースターは、家で使おうと思います!

今できること、「考える」から「行動する」へ! 詳細はホームページへ <http://adv.hokkaido-np.co.jp/eco/> 北海道エコアクション

おじいさんたちが植えた木を、わたしたちが使う。わたしたちが植える木を、みらいの孫たちが使う。

日本の暮らしが、めまぐるしく変化したこの50年。いま、あらためて、木のぬくもりを思い返し、生活に取り入れて、自然を思いやる「木づかい」の毎日へ。何十年も前に植えられた木を、たいせつに使う。そして、何十年後かのために、あたらしく植える。それは、森林を代産させ、健康に保ち、みどり豊かな国を受け継ぐことに、つながります。

三井物産は、次世代のことも考えながら、「植える」「育てる」「切る・使う」が循環する、持続可能な森づくりに取り組んでいきます。

木のやすらぎと、森のめぐみを、次の世代へ。

高産成長期の頃に植えられたカラマツの切り株です。

三井物産の森 全国70か所以上、約14,000ha。長い時間をかけて、大切に守り育てられています。

MITSUI & CO.